

中岳



Top contents

第46回 十三大市歯科医師会役員連絡協議会.....	2
国立病院機構熊本医療センター開放型連絡会.....	4
九州八市歯科医師会役員連絡協議会.....	14



CONTENTS

巻頭言	田中弥興副会長	1
第46回十三大市歯科医師会役員連絡協議会		2
国立病院機構熊本医療センター開放型連絡会		4
第64回医歯連携セミナー		6
平成25年度第2回学術講演会		8
熊本市長との懇談会		10
「三歯会」開催		12
第32回九州八市歯科医師会役員連絡協議会		14
平成25年度熊本市エイズ総合対策推進会議		15
子育てすくすく☆子ども博2013		15
各郡市歯科医師会医療相談担当者会議		16
医療安全支援センタージョイントミーティング 合同事例検討会		18
2013年熊本市市民健康フェスティバル		20
第17回 熊本市入院入所者歯科診療運営委員会		21
スタディー		
修復治療における矯正治療について	清水幹広	23
支部会だより（支部長会議・北部3支部・東部4支部）		26
第37回 健康教室講座		29
委員会紹介（医療管理・学校歯科・学術）		30
新入会員紹介		40
ゴルフ川柳		41
スポーツの広場		42
会務報告		43
編集後記		

表紙のことば

年末になると、色々な所でイルミネーションが見られ、一年の疲れが癒されます。大切な人と見に行くと尚更ですよ。（Y. O）

巻 頭 言

会費徴収法改定に向けて

この度、一般社団法人移行によるはじめての役員選挙により選ばれて副会長を拝命いたしました田中弥興でございます。医療管理、広報という対内的な委員会を経験してきた私にとってその職責の大きさに重責を感じている今日この頃です。

宮本会長も申しておりました通り、前執行部からの懸案（フッ化物洗口事業、会費徴収法改定）を主軸に、超高齢化社会に向けての歯科医師会のかかわり方を今までの事業も見直しながら、検討しているところです。

さて、超高齢化と言いましたが“人生50年”と織田信長の時代からうたわれていました。戦後1950年代にはまだ平均寿命は60歳に達したばかりでした。国民皆保険の恩恵や高度成長による経済的余裕のおかげで世界最速の高齢化が進行しつつある現状の中、歯科医師の立ち位置というのを再考する時期に来ているのではないのでしょうか。

ある記念講演会に出席したとき、参議院議員の先生が基調講演の中で“医（井）の中の蛙”であってはならない、つまり専門職にこだわらず、他職種との連携・協働は出来ないかを考えながら行動をしていかないとこれからの高齢化社会に対応できなくなり、職域自体が閉塞して発展していかない旨の話をされました。我々にもあてはまるところでは、在宅・介護の分野で後れを取っています。日歯の方でも『すべての歯科医師が閉鎖的な枠組みから脱皮して、“歯・口腔と健康増進の専門家として他職種と連携・協働できる歯科医師”へと飛躍することが望ましい』という考えで事業展開されています。本会もこの分野では以前は行政と連携して、往診、在宅の口腔ケアで全国的にも最先端を行っていた事実があります。熊本市も政令都市の仲間入りをしたことで県の事業から切り離されています。本会もこの事実を受け止め、先にも述べました様に事業の再検討をして、行政や他保健医療団体とさらなる連携を強化して独自の事業を模索していかなければならないと思います。

また、こういう場合に政治の力をお借りしなければならないところも多々あります。夏の参議院選挙におきましては、自民党が大勝利、われらが石井みどり先生も4位当選という快挙を達成されました。これも会員の皆様の協力があった結果だと思えます。この結果を基に、国政においては石井先生が活躍されると思えますし、本市においても我々と同じ目的を共有できる市議の先生方と会員のメリットになる施策の実現に向けて協働していかなければならないときにいい影響力になります。皆様、よろしく願い致します。

話は戻りますが、本会も皆様ご存知のように会員の高齢化は避けて通ることはできません。会費均等割り説明会でもご説明しました様にこのままの会費徴収法では会の運営が滞る時が来ます。事業の見直しや諸経費の節約等に心がけ、次年度予算編成は行ってまいります。政令都市の歯科医師会としての働きができるような会に改革していくためにも、会費改定に向けての御検討をよろしくお願い致します。皆様の意見を集約して来年度には結論を出していきたいと思っております。新執行部一丸となって頑張りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



田中弥興副会長

医科との差を是正するためにパラダイムシフトを 第46回十三大市歯科医師会役員連絡協議会

日時：10月12日（土）13時30分～

場所：小倉リーガロイヤルホテル

参加者：宮本格尚会長・渡辺猛士副会長・小野秀樹常務

参加市：札幌、仙台、埼玉、千葉、横浜、川崎、新潟、名古屋、神戸、岡山、広島、北九州、福岡

十三大市歯科医師会役員連絡協議会とは政令指定都市20市のなかで13市が集まり、政令指定都市の歯科医師会が抱える問題を話し合う協議会で、年1回、北から各都市持ち回りで開催しています。今年が46回目の歴史ある会議で北九州市が担当しました。熊本市は政令指定都市移行に伴いオブザーバーとして参加しています。

来賓の挨拶

開会挨拶：山地直樹北九州市歯科医師会会長

来賓挨拶：北橋健治北九州市市長、大久保満男日本歯科医師会会長、長谷宏一福岡県歯科医師会会長の挨拶で会は始まりました。



会場となった小倉リーガロイヤルホテル

基調講演

まず大久保日歯会長による基調講演が行われ、経済と医療、歯科医療の現状と未来、歯科医療の新たな転換、生活習慣病周術期等医科との連携、健康寿命とQOLの向上について講演されました。特に医科との間にある格差について、医科では医療費の自然増があったが、歯科では無く現在の医療費格差が生じた。最大の原因は、

薬価差益の還元を医科の増点のみに回す事を了承した事にある。この医科との差を是正するためにはパラダイムシフトすることにより生きる力を支援する、“生活の医療”を行って行く必要があるとの講演でした。



生活の医療を行っていく必要がある

全体会議

座長：山地直樹北九州市歯科医師会会長

副座長：橋本敏昭同副会長

全体会議では先に配布された歯科口腔保険法の制定について各市アンケート結果に基づき協議された。現在、埼玉、名古屋、岡山の3都市で制定されている。制定に当たり、口腔保健法という理念法をいかに予算を伴う実効性のある法にするかが課題であるとの事であった。制定においても、名古屋からは議員立法なので議員との連携が大事である。連盟を利用し政治力が必要であるとの助言を頂いた。



オブザーバーとして参加

第一分科会 記録者：渡辺猛士
協議題：「政令指定都市歯科医師会の現状と展望」
法人移行形態
行政区と歯科医師会区域との関係について
未入会者問題について
など

第二分科会 記録者：小野秀樹
地域医療連携への取り組みについての協議が行われた。
がん患者周術期における医科歯科連携について。
国立がんセンターのある都市と無い都市とで対応が異なっている。がんセンターのある都市ではセンターを中心に積極的に実行しているが、無い市では歯科医師会が中心になり医師会、各

病院との連携が模索されている。その他脳卒中や全身疾患についての関連研修会、イベント、システムに対する問題点、高齢者に対する対応として認知症、介護について協議された。

政令指定都市は行政上、県と同等であるため行政に対する対応が一般の郡市と異なる。今回の協議会でその対応の仕方や歯科行政のあり方等参考になる意見が多数あった。しかし同じ政令指定都市でも人口360万人の横浜とその他の都市、熊本市では市の規模、歯科医師会の成り立ち等に大きな違いがあり、同等には比べられない。今回はオブザーバーとしての参加であったが、来年までには、今後協議会に参加するか否かを決めなければならない。来年まで検討が必要となった。（渡辺猛士・小野秀樹）

お勧めのディスク

Sadao Watanabe - Round Trip [1974]

いやあ、こんなものを持っていたんだなあ。福岡、赤坂の田口商店に毎週のように通っていたころ見つけて買ったんだろうなあ。レコード箱の中で忘れられていました。今聞いても新鮮、みんな若くてインスピレーションあふれるプレイを聞かせてくれます。

コリア、ヴィトゥス、デジョネットと '71NYで一発録りした記念的一枚。ナベサダも元気いっぱいです。

この後(?) サークルへと向かうコリアですが、フリーフォームのようできてガンガンやってます。

Sadao Watanabe - Jazz Samba 1967

Stan Getz & Charlie Byrd - Jazz Samba (1962)

もう一枚ナベサダのジャズ盤を、若きプーさん=菊池雅章、事故にあう前の富樫雅彦が一生懸命やっています。

今となってはこれも記念品か、聞いてるこちらが気恥ずかしくなるリズム隊の生硬さ。ナベサダひとり頑張っている。

ならべて聞くと、やっぱり違いが分かってしまう、私の愛人ゲッツ。

ゲッツはルーレット盤に限るとは、かの栗村先生がのたまわった言葉ですが(私も愛聴していますが)、それでもボサノバとかサンバとか、ブラジルへ向かう頃のゲッツも捨てがたいものがあります。

センターとの連携システムのさらなる有効活用を 国立病院機構熊本医療センター開放型連絡会



多数の参加者で溢れた講演会場

9月10日（火）19時よりホテル日航熊本にて国立病院機構熊本医療センター開放型連絡会が開催された。開会に当たり河野文夫院長より現状報告があった。平成25年9月現在の医師・歯科医師の登録医数は医科1266名、歯科315名であること、救急ヘリ搬送の増大、365日24時間全科にて診療可能体制作り、ワークステーション事業（消防庁の許可を得て熊本消防局の救急車の常時待機）について報告があった。今年度人事の変更で副病院長、各科診療部長、看護部長他紹介と日頃の病病・病診連携への支援に対する感謝を述べられた。



現状報告、症例報告などが行われた

次に開放型病院運営協議会委員長で福島敬祐熊本市医師会会長より挨拶があり、遠隔地での連携も可能となり病病連携・病診連携の重要性

がさらに高まり、熊本医療センターとの連携システムを有意義に活用して頂きたいと話された。続いて連絡会に移り田中英一熊本市医師会理事と高橋毅副病院長の司会で国立病院機構熊本医療センター医師2名より症例呈示が行われた。

まず豊永哲至糖尿病・内分泌内科部長より「新しい人工臓腑について」の演題で発表が行われた。新しい人工臓腑（STG-55）とは、患者の末梢に人工臓腑のカテーテルを接続し、設定した血糖数値を基に、インシュリンとグルコースを機械が計算、判断し、1分ごとに自動的に送り込まれるといった緻密な血糖管理を可能とする機械であると紹介された。3月に導入後6症例で使用し、ICUに入院している患者への使用がほとんどで、年齢は20～60歳と幅広く有用であったと報告された。次に消化器内科石井将太郎先生より「超音波内視鏡の新たな展開」の演題で発表があった。超音波内視鏡とは、内視鏡に超音波検査のプロブがついているものであり、エコー検査と違い胃や腸の中の空気や腹壁、腹腔の脂肪、骨が画像化の障害にならず、観察目的部位近くで超音波をあてることのできるため、高い分解能の超音波観察が可能である。

特徴としては体外式と比べ小腸内からの観察が可能になり視野が広がった事であり、主に



今後も連携を通してお世話になります

膵管内乳頭粘液腫瘍、胆泥、膵臓癌等の症例で使用されており、この内視鏡の先に小さな針をつけ検体を直接吸引採取することも可能と報告された。

地域医療連携室からのお知らせとして清川哲志統括診療部長より、電子カルテだとカルテが読みにくいとの声に対して、IDとパスワードを配布設定し連携室で電子カルテがしっかり読め、十分な情報を持って病室に行き診察できるシステムを構築したこと、電子カルテを連携の

先生の診療室で閲覧できるシステムを構築（個人情報保護の安全性確保）し、患者の同意を得て患者情報をリアルタイムで参照することが出来る「りんどう医療ネットワーク」の紹介があった。最後に宮本格尚熊本市歯科医師会会長から挨拶があり、自身の体験を踏まえ熊本医療センターの365日24時間断らない診療体制の素晴らしさを述べられ、熊本市歯科医師会としても今後も連携を通してお世話になりますとの挨拶があった。場所を移し福島敬祐熊本市医師会会長の挨拶で他科の先生との交流会が開かれた。河野文夫病院長が各テーブルを回られ活発な意見の交換がなされ、国立病院機構熊本医療センター各科の医長、スタッフの紹介があり閉会となった。特に歯科口腔外科では中島健口腔外科部長を中心にスタッフも充実しており、歯科医師会会員からの紹介にも救急医療も含めてスムーズに対応して頂いており、今後もしっかり連携を深めていきたいと感じた。

(医療管理 森野茂)

お勧めのディスク

Miles Davis Quintet Live in Europe 1969 The Bootleg Series Vol. 2

帝王マイルス、幻の音源シリーズ第2弾です！

1 昨年リリースされたのが「ブートレグ・シリーズVol. 1」ということでVol. 2 が遂に昨年登場！

今回は第三期クインテット俗に「ロスト・クインテット」の音源です。

メンバーはウェイン・ショーター (sax)、チック・コリア (key)、デイヴ・ホランド (b)、ジャック・ディジョネット (ds)。

このユニットは1968年から1970年まで存在したが、公式なアルバムは『1969マイルス』(1969年7月のライブ録音)しかない。

このライブアルバムがまた超ど級に素晴らしい!!

私もこの時期のブート音源はいくつかもっています。ていうか、「1969」を聞いてぶっ飛び、この時期の音源をあさった、というのが本音です。

in a silent way で後進にパストラルな世界を囁いた帝王がすでにこんなに凄まじいファンキーな世界を作っていたとは！

チックにしろ、ウェインにしろこんな世界を体験したくせになぜ初期のWR, RTFはあんなにピースフルなの。

ピッチズ・ブリューの音はRTF, WRをすでに置き去りにしているということか。

大学病院と医療センターの連携状況

「第64回医歯連携セミナー」



めったに見られないビデオに息を呑む

8月22日（木）20時より、国立病院機構熊本医療センター2Fの地域医療研修センターにおいて第64回医歯連携セミナーが開催された。今回は「熊本大学と国立病院機構熊本医療センターの歯科口腔外科における医歯連携―連携症例について―」という演題で、熊本大学大学院生命科学研究所、総合医薬科学部門、感覚・運動医学講座、歯科口腔外科学分野の篠原正徳教授の講演が行われた。まず国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科医長の中島健先生から挨拶と講師の紹介があり講演が始まった。

最初に医歯・病診連携システム構築の重要性について説明があった。熊本大学医学部附属病院歯科口腔外科では、これまで熊本県内の病院歯科口腔外科ならびに一般開業歯科医院との連携の構築に力を入れてきており、その中でも特に熊本医療センター歯科口腔外科との病病連携は以前より円滑になってきているとの事である。そこで今回は熊本大学と国立病院機構熊本医療センターの歯科口腔外科における連携の現状ならびに診療状況についての報告があった。過去3年間における熊本医療センターからの紹介患者は、総数27症例で年々増加傾向にある。その内訳は悪

性腫瘍が24症例と圧倒的に多く、他に味覚異常1例、舌白板症1例、慢性多発性骨髄炎1例であった。その中で悪性腫瘍の内訳は扁平上皮癌が15症例で最も多く、他に腺様嚢胞癌2例、悪性黒色腫2例、粘表皮癌1例、粘液腺癌1例、紡錘細胞癌1例、分類不明1例であった。悪性腫瘍患者の経過としては、生存が（18例）78%で、一般的な生存率と大差無いとのことであった。次に上記紹介患者の経過報告も兼ねて扁平上皮癌4例（頬粘膜癌、舌癌、上顎歯肉癌、下顎歯肉癌）、悪性黒色腫2例、唾液腺癌3例（粘液腺癌、腺様嚢胞癌2例）および骨髄炎1例の計10症例について、それぞれ詳しく説明された。

まず扁平上皮癌について、頬粘膜癌から順に経過報告があり、熊本大学ではすべての症例において術前に化学放射線療法が行われ、その後原発巣の切除・頸部郭清および再建の流れで手術が行われており、特に化学放射線療法でかなりの確率で腫瘍の縮小が期待できるとのことだった。実際の術中ビデオを使い説明があり、切除から各種皮弁をおこすところまで貴重な映像が流れた。次に悪性黒色腫の症例が呈示されたがいまだに治療法が確立しておらず、予後は不良とされている。



熊本には拠点病院がもっと必要です

その中でも非常に珍しい無色素性悪性黒色腫について報告があった。悪性黒色腫に特徴的なメラニン色素が欠けているため、発見あるいは診断に時間がかかり治療開始の時期を逸することがあり、極めて予後不良との報告であった。次に唾液腺腫瘍が呈示されたが特に腺様嚢胞癌は、発育は緩慢であるが、浸潤性が強く予後は不良とされている。今回の2例に関しても再発・転移をおこしており、治療に苦慮されていた。また3才男子の慢性多発性再発性骨髄炎では、なかなか確定診断がつかず小児科と共同で治療に当たり、症状が緩解した症例が呈示された。

その中でも非常に珍しい無色素性悪性黒色腫について報告があった。悪性黒色腫に特徴的なメラニン色素が欠けているため、発見あるいは診断に時間がかかり治療開始の時期を逸



会場は別次元の世界に引き込まれる

最後に連携のネットワークの現状とこれからについて話された。現在熊本県において拠点となる病院歯科は熊本市に集中しており、阿蘇・八代そして玉名方面に無いのが問題であると指摘された。今後10年の課題となるが、少なくとも熊本県内にあと拠点病院が3～4施設必要でありこれからも頑張っていきたいと言われ講演が終了した。スライドでは口腔外科学会でも見られないような貴重な写真やビデオを流され、あっという間の1時間30分の講演会で大変勉強になった。

(医療管理 片山晃紀)

お勧めのディスク

Paul McCartney - New [2013]

たぶん最後になるだろうツアー、福岡ドームも3万円のツアーが旅行者から案内されていました。いい席は3万とかのプレミアがついたとか。クラブトンも来年ラストツアーが予定されていますがこれも高くなるんだろうなあ。

でもいけなくてもいいんです。新作も変わらずポールの声が聞けます。

ここ数年のレトロな趣味は封印してさりとロック/ポップを聞かせています。

今回の“Out There” Tour、フロリダから始まった米国の初日、2日目、6月のミルウォーキーの3ステージの音源をゲットしました。

昔と変わらぬキーで(70歳なのに!) ビートルズ一杯やっています。ウイングスもやっています。至福の150分×3でした。

Keith Jarrett Trio - Somewhere ECM

スタンダード・トリオではなく各自の名前を出してあるのが意味深いアルバムです。

2009.7月のライブ。バーンスタインの名曲を演じています。演奏は何にも言うことなし、いつもの。

『Tooth Wear の臨床対応とガムを用いた再石灰化療法の最前線』

～平成25年度第2回学術講演会～



日常臨床に常に遭遇している内容だった

8月24日(土)15時より、熊本県歯科医師会館4F大ホールにおいて、㈱グラクソ・スミスクラインとの共催で、熊本市歯科医師会学術講演会が開催された。今回は東京医科歯科大学大学院歯制御学分野の北迫勇一助教をお招きし、「Tooth Wearの臨床対応とガムを用いた再石灰化療法の最前線」という演題でご講演いただいた。宮本尚会長の開会の辞に続き、講演が始まった。



講演ではまず、近年のレジン修復の変遷について説明があった。メタル修復ではう蝕だけでなく健康歯質も含め箱型に削り、印象採得する必要があるが、コンポジットレジン修復ではう蝕のみを削り、印象採得が不要で、1回の治療で済むのでMIのコンセプトからも推奨されるということでした。また、近年は高強度のフロアブルレジンが登場し、窩洞辺縁の封鎖性が高まり、形態の付与もしやすくなった。しかし、CR修復はMIに基づく良い方法だが、臼歯部修復における長期予後の報

告はまだないことも付け加えられた。

近年は以前よりも歯が残るようになってきたことも説明され、歯が残る時代の新たな問題点とし、①歯茎が下がる(食片が詰まる)、②歯根が露出する(しみる、根面う蝕)、③歯がすり減る(tooth wear)を挙げられた。①については口腔清掃の重要性、特に歯間ブラシやデンタルフロスの有効な使用法などご説明頂いた。②については一度下がった歯茎は戻らないことから、しみ止め用の歯磨剤の使用や歯科医院における知覚過敏抑制材の塗布を推奨された。③については本日のメインテーマで特に詳しくご説明いただいた。

これまでう蝕と歯周病は2大疾患と言われてきたが、現在ではtooth wearがそれに加わり口腔の3大疾患と言われている。このtooth wearと称されるう蝕原因菌が関与しない歯質表面の損失には、咬耗(歯と歯の接触によるすり減り)、摩擦(歯以外の物理的な方法・手段によるすり減り)、アブフラクション(過剰な咬合力により歯肉縁付近にストレスを集中し生じる歯の崩壊)、酸蝕症(細菌の関与がない酸による化学的な歯質の溶解)が属する。このうち生活習慣が一番反映されるのは酸蝕症だが、わが国における認知度は低いとの説明があった。しかしながら、近年健康志向の向

上と、若年層を中心とした嗜好品の変化から、酸蝕症を含むtooth wearは日々の臨床で避けられない問題となってきているとのことで、臨床上、酸蝕症及びその疑いを認めた場合、適切な問診と介入方法が必要となってきているとのことであった。

酸蝕症の原因としては、内因性のものとして：逆流性食道炎、拒食症、アルコール中毒、摂食障害による嘔吐などがあり、外因性として：薬剤（ビタミン剤）、職業環境因子（酸性ガスの吸引）、過剰な酸性飲食物の摂取などを挙げられた。臨床例として、健康意識がとても高い患者で、口腔衛生状態も良好ではあるが、2年にわたり黒酢（pH2.7）を毎晩飲み続けたケースではカウンセリングの難しさを感じた。また、東京医科歯科大学の調査結果では、酸蝕症の罹患率は2.3%で認められたとのことであるが、実際の臨床の現場では、軽度の白濁は見過ごされているケースが多いとのことで、日々の臨床でももう少し注意深く観察する必要性を強く感じた。

Tooth wearの臨床的対応として、①審美的または機能的な損害や不快症状を伴わない生理学的なtooth wearへの臨床的対応は、基本的に予防処置または経過観察である。フッ化物配合歯磨剤やデンタルガムが有効である。②病的なtooth wearでは早急な臨床介入が必要となる。接着性コンポジットレジンを用いたMI conceptに基づく最小限の臨床的介入は、tooth wearの臨床的対応を大きく変えつつあると説明された。①に関して、フッ化物配合歯磨剤、MIペースト、フッ化物配合デンタルガム（POs-Ca F）などを利用したエナメル質再石灰化療法の説明が行われた。再石灰化の主役はフッ素であり、近年、水溶性カルシウムに注目が集まっているとのこと。水溶性カルシウムであるリン酸化オリゴ糖カルシウム（POs-Ca）の特徴は、水に対する溶解性が非常に高い、吸収性が高い、熱安定性が高い、pH安定性が高い、食品素材などがあり、これにフッ素を配合したガムはエナメル質の再石灰化にとっても有効との解説があった。口腔内でエナメル質再石灰化が生じるためには、唾液や歯垢中の液成分に微量のフッ素イ

オンが長時間にわたって存在することが必要条件であるが、フッ素配合ガムにより最低20分間の微量フッ素イオンの口腔内滞留が期待できる



とのこと。講演の後半では酸蝕症患者へのブラッシングについても言及され、ここでは患者管理型歯科医療の提案があった。具体例として

- ①歯列状態（混合歯列、歯列不正など）
 - ②口腔衛生状態（ブラッシングスキル、プラークの付着状態など）
 - ③食生活習慣（酸性飲食物の摂取方法・頻度など）
- 具体例1：①②③すべてに問題なし
→通常のブラッシングで問題なし
- 具体例2：①②が良好で③に問題あり
→過剰な酸性飲食物が摂取されている場合、まずは生活習慣に対する指導を徹底し、摂食直後の歯磨きを避けるように指示。（30分後のブラッシングを指示）
- 具体例3：①②問題あり＝う蝕ハイリスク症例で③に問題なし
→通常のブラッシングで問題なし
- 具体例4：①②③すべてに問題あり
→まずは口腔衛生状態および食生活習慣に対する指導を徹底する
→それから上記具体例の1～3 いずれかへ移行
また、ここで特に興味を引いたのが、歯磨剤の中にも酸性が強いものがあるとのことだ。
- 歯磨剤のpH値については現在調査中とのことで、今後の研究発表に期待される。
- 講演は約2時間30分にわたり行われたが、日常臨床で常に遭遇している内容が多く、非常に興味深く拝聴した。最後に学術担当の大塚昭彦理事が北迫助教に感謝状の贈呈を行い、講演会を終了した。（学術 山口英司）

フッ素洗口事業に行政の協力を

「熊本市長との懇談会」



手ごたえを感じた懇談会であった

日 時：9月4日（水）13時00分～13時15分

場 所：熊本市役所市長室

出席者：宮本格尚会長・渡辺猛士副会長・田中
弥興副会長・高松尚史専務

市長室において、幸山熊本市長と熊本市歯科
医師会新執行部の会合がもたれた。

市長室で待機していると、幸山市長の来室。
さっそく、宮本会長の挨拶の後、渡辺・田中副
会長・高松専務の自己紹介と続き、渡辺副会長
より懸案のフッ素洗口事業の現状説明があった。
その内容は下記の通り。

熊本市歯科保険推進協議会では平成22年11月
1日に、県により施行された歯科保健推進条例
を受けて過去2年ほど学校におけるフッ素洗口
の推進を図ってきた。フッ素洗口事業で、安全
且つ確実に集団における齲蝕の発生を抑制する。

他の自治体で、フッ素洗口の採用により虫歯
保有率が有意に改善してきている。

佐賀県などは数年前まで全国ワースト1であ
ったところが、フッ素洗口を導入したことにより
今年は日本一虫歯保有率の少ない県となること
が予測されていることなどが、各方面と事実と
して共有できている。

ところが、本市においてはこの実施にあたる
モデル校策定にあたり学校サイドからの大きな
障害があり、実行に甚だ困難を来している。現
在5区すべてにモデル校を設けることを前提に、
各区役所の子ども保健課には今年度から新たな
嘱託職員を配置され、準備は整っていると思わ
れるところであるが、残念ながら現場の教職員
の理解が得られず由々しき事態に陥っている。
これに対し歯科医師会では担当部局と協同して
学校長会、養護教諭、PTAなどに対し幾度と

なく説明会を行ってきたが、十分な理解をいただけていないのが現状である。

当初、本市においてこの洗口事業を開始したおりには、熊本県下（玉東を除く）他都市より先んじて着手したつもりであったが、今年度より県知事の歯科保健に対する大きな理解と賛同が得られたことから、県においては今年度中に20校、来年度中にさらに50校の実施校を予定しており、このままで推移した場合、熊本市民だけがこの件において不利益を被ることになりかねない。九州八市の中で、宮崎市は一昨年まで学校におけるフッ素洗口事業の実現に困難を極めていたが、新たに去年から市長の大きな決断により一気に事業推進の流れが始まったと聞いている。熊本市においてもぜひ市長自ら学校におけるフッ素洗口に大きなエールを送っていただきたいものと考えている。

渡辺副会長の説明の間にも、時折、市長はいろいろな発言をされていたが、おおむね好意的



固い握手を交わす宮本格尚会長
な発言であった。

最後に、市長にコメントを求めたところ、下記の2点に集約される。

- ・フッ素洗口事業は、これからも進めていきたいし、協力は惜しまない。
- ・在宅医療連携に対しても、歯科医師会の協力をお願いしたい。（高松尚史）

お勧めのディスク

martin brunner trio - behind the clouds

チェコのピアニストMartin Brunnerが2007年秋プラハで結成したトリオによる作品。

横断歩道上を色取り取りの雨傘をさした人々を映し出したジャケットが目について購入しました。ピアノトリオの王道を行く演奏です。ごちゃごちゃ言わずに聞け！と本人から言われたように感じます。

エバンス亡き後ジャレット、コリア、メルドーを聞いていましたが、どうしても雑念が入ります。南博もデビュー時から比べると、思索的な演奏に変わってしまったし。久々に黙って聞け、といえるピアノトリオです。

Quercus - Quercus [June Tabor, Iain Ballamy, Huw Barren - ECM 2276]

ヴォーカル、ピアノ、リードというリズム隊不在のトリオによるライブです。ピアノがリズム隊になっているかも。ECMは見つけたら即買いをします。

まあ、間違いない、いつもの音世界を楽しめますから。で、このCDは声とリードがまるで声明のように響き渡ります。

おそらくライブではチャンネル変換していたんじゃないかと思わせる、そうだとするときと体の周りに音がまとわりついてぐるぐる絡み合っているように感じられたんだろうなあ。

歯科界発展のため活発な意見交換が行われる 「三歯会」開催



歯科界全体の環境をより良くしていきたい

9月9日(月)19時30分より歯科医師会3F会議室にて三歯会が開催された。出席者は歯科医師会より宮本格尚会長・田中弥興副会長・渡辺猛士副会長・高松尚史専務・井手裕二学校歯科理事・前田明浩委員長・温永智広報理事・井野健地域保健理事・医療管理委員会7名、熊本市歯科技工士会より玉置泰伸会長・如田副会長・川崎監事、熊本県歯科衛生士会熊本支部より植由紀子支部長・高柳徳子副支部長・天野富子副支部長の計21名であった。高橋禎医療管理委員長の司会で会議が始まり、宮本会長、玉置会長、植支部長の挨拶の後、出席者全員の自己紹介が行われ意見交換会が始まった。まず衛生士会から当日資料として事業計画書が配布され1年間の活動報告と今後の活動予定の説明があった。

- ①ライフステージごとの事業として、乳幼児期・学童期および成人・高齢期に対して講座や歯磨き巡回指導等が行われており、今後も続けて行う予定であること。
- ②「歯の祭典」では、衛生士コーナーおよび口腔介護コーナーを担当した。来場者の年齢層等を考慮し口腔介護コーナーを体験型の咬合力測定・口臭測定・位相差顕微鏡コーナーと改善したことにより前回にも増して大変賑わった。
- ③ウェルパル熊本で開催された多職種連携会議に参加した際に在宅の歯科医師不足の指摘を受けたこと。在宅専門歯科衛生士の活用。歯科界が取り残されてしまう事を危惧した。
- ④口腔ケア研修会への歯科衛生士の参加を促して欲しいとの要望。



病院関係者向けの研修会を増やしたいと述べる植由紀子支部長



口腔ケア分野で他業種連携における歯科の関わり方が大切

宮本会長より済生会病院との会議でがん連携、口腔ケアに関して今後歯科医師会と歯科衛生士会とで取り組みが行われていく予定である事、渡辺副会長よりケアプランの中に口腔ケアの項目がない事、介護認定審査会で要支援・要介護に関して歯科項目はあるがチェックが入らない等歯科分野が軽視されている傾向にあり、その改善を熊本市医師会に要望しているという事であった。



会員増加が課題と話す玉置泰伸熊本市技士会会長

また玉置会長から自身の体験を通して、現場における看護師の口腔ケア・義歯の取り扱いが不適切で歯科衛生士会から何らかの指導、アプローチはなされているかについて質問があった。

植支部長は一部の病院では衛生士を派遣または採用しているが、全部の病院への対応は不可能で今後は病院関係者向けの研修会を増やし対応していきたいとした。次に歯科技工士会から熊本市歯科技工士会の組織率が全体の30%を切り、会員減少が問題となっている。歯科医師会への更なる協力の為にも会員増加が課題であり、歯科医師から未入会の歯科技工士に入会を勧めて欲しいとの要望があった。これに対して歯科医師会からはできるかぎりの協力を行いたいと回答した。また歯科衛生士会から会員数も県内在籍数650名と減少しており研修会費で会員、非会員で差をつけ、よりためになる研修会を開催することで入会を促しているとの報告があった。続いて井手理事より第77回全国学校歯科保健研究大会への協力要請、渡辺副会長よりフッ素洗口事業の進捗状況と歯科衛生士会への協力の要望があった。最後に田中副会長より今後も三歯会がお互いに活発な意見交換をし、歯科界全体の環境をより良いものにしていきたいと述べられ閉会となった。（医療管理 宇都和寿）

お勧めのディスク

Miles Davis LIVE in Europe 1967 The Bootleg Series Vol. 1

アコースティック・ジャズの最高峰にして臨界点、マイルス・デイヴィス黄金の第二期クインテットによる1967年のヨーロッパ・ツアー音源のオフィシャル盤としてでした。

ブートレグで持っている11月4日ベルリン公演、同月6日のパリ公演など、その凄まじいパフォーマンスの数々をいい音で堪能できます！

それぞれの国営テレビ・ラジオ局のオリジナル資料より選び抜かれた内容は、1967年10月から11月にかけて北ヨーロッパで行なわれた5つのフェスティバル公演での9日間にわたるものということです。

60年代後期のマイルスは、プラグドニッケルでぶっ飛びましたが、不沈戦隊の終末を迎えるこの時期のライブは言葉をなくす程圧倒されます。

今までいいとは言えない音質で聞いても、丁々発止のやり取りはすごかったけど、デジタルリマスターされた音であらためて聞くとまたすごい。

おまけのDVDは、以前CBSコレクション（72枚組）についてたおまけから1カット抜けてます。

～他市を参考にしてフッ素洗口の推進を～

第32回九州八市歯科医師会役員連絡協議会



フッ素洗口の先進市の意見が参考になった

10月18日（金）16時より、鹿児島県歯科医師会館5F小ホールにおいて、協議会が開催され、会長・専務理事で出席しました。今年の改選で新しく替わった役員や続投している役員などの多様な顔あわせとなりました。事前提出協議題に関して、それぞれの市よりの回答・追加説明を行いました。熊本市歯科医師会としては、フッ素洗口に関して、進んでいる地域の意見がかなり参考になりました。九州八市では、佐賀・宮崎のフッ素洗口がかなり進んでいて、先進市ならではの工夫と意見が参考になりました。主な内容は下記の通りです。

・宮崎市歯科医師会は（宮崎県歯科医師会では

ない）、歯科福祉センターを10年ほどまえに建設し、その中に口腔保健支援センターをおいて、市民への啓発事業の推進や障害者治療・在宅治療の推進などに力を入れている。一つの市単位でこれだけのセンター事業を行っているのは、九州各市とも驚いていた。

・宮崎・佐賀ともにフッ素洗口事業は、かなりの学校で行っているが、いずれの意見もトップダウンでの方針決定以外すすまないことを提案された。

他市の状況も参考にしながら、政令指定都市としての環境も考慮しながら、いろいろな事業を検討していかなければならないと痛感しました。

（高松尚史）

第32回九州八市歯科医師会役員連絡協議会 出席者名簿

会名	会長	専務理事
宮崎市歯科医師会	相馬 博	野村 賢介
南部地区歯科医師会	湖城 秀久	長嶺義一郎
福岡市歯科医師会	熊澤 榮三	有吉 誠
大分市歯科医師会	小幡 洋一	伊藤 栄治
佐賀市歯科医師会	駒井 英基	梅津 哲夫
長崎市歯科医師会	平川 明	村橋 秀夫
熊本市歯科医師会	宮本 格尚	高松 尚史
鹿児島市歯科医師会	橋口 哲彦	上稲葉 隆

オブザーバー	役職	氏名	役職	氏名
鹿児島市歯科医師会	副会長	下田平幸一	理事	脇元 剛一
	副会長	平田 哲也	理事	増山 智美
	常務理事	濱田 悦郎	理事	迫中 友博
	理事	橋本 裕	監事	田中 忠幸
	理事	竹内 誠	監事	上敷領清晴
	理事	濱坂 卓郎		

AIDSの認識を常に持つておく事が大切 平成25年度熊本市エイズ総合対策推進会議

9月11日(水) 14時~15時

場 所：ウエルパルクまもと

会議は、学識経験者や歯科医師会、医師会、弁護士会、熊日新聞社等の各界代表の20名が出席し行われました。主催は熊本市保健所感染症対策課です。

HIVに感染しても最近の薬の進歩のおかげで、長期の不顕性感染となりAIDSが長期間発症しない症例が増えてきているとの事でした。

また、AIDSが発症しても、薬や医療の進歩のおかげですぐには死なない病気になったということです。

しかしそれだけ以前より多くのHIV感染の患者が身近に存在する可能性も高くなります。私達歯科医師は今やHIV感染やAIDSをめったに無い病気だと考えずに、いつ患者が自分達の診療室に訪れても不思議では無いとの認識を持つておく事が大切だと思います。



各界代表の20名が出席

(学校歯科 前田明浩)

気軽な歯科相談を目指して 「子育てあくあく☆こども博2013」

9月21日(土)、22日(日)にTKU主催の『子育てあくあく☆こども博2013』がグランメッセ熊本で行われ、例年通り歯科相談のコーナーに参加してきました。



大幅に増えた歯科相談者

歯科相談への来場者は21日78名、22日118名と、去年は2日間で112名なので大幅増でした。

相談者の子供の年齢は2~3歳が中心で、東区、中央区を中心に県内全域から来場者がいました。相談内容は「歯ブラシを嫌がります」「虫歯が無いか、みてください」「矯正治療はいつからはじめればいいですか?」等で、中には、味のりを食べながら虫歯チェックにくるお子さんもおり、お母さんと苦笑いでした。この気軽さがこのイベントの良い所だと思います。

また、出来るだけ歯科医院に足を運んで頂く為にシーラントの情報を皆さんに発信しました。

(地域保健 磯野誠一)

患者の立場にたって考える 各郡市歯科医師会医療相談担当者会議



各郡市医療相談担当者会議にて小島県歯副会長（右）から挨拶

9月14日（土）17時より熊本県歯科医師会館第1会議室にて医療対策委員会主催の各郡市担当者が開催された。

会議の出席者は熊本県歯科医師会小島博文副会長、渡辺賢治専務理事、医療対策委員会（富屋栄祐担当理事含め10名）、各郡市担当者（14名）の出席であった。

協議題は以下の2点

- 1) 平成24年度事例分析・検討について
- 2) 各郡市医療相談担当者の患者への対応方法（担当者の心得）について

1) 富屋理事より



相手の話をよく聞く

まず熊本県歯科医師会医療事故処理規程（1条～14条）を熟知しておいて欲しいとのお願い。各種相談・苦情処理における通知書送付の流れの説明、注意点の話があり各郡市の会員の先生に周知して欲しいとの事だった。

・該当の先生には通知書が届くことになるがその内容は曖昧にせざるを得ない。それは内容を知った先生の態度（言動）に少しでも出ると患者も疑問を覚え、それまで築きあげてきた医療対策と患者との間の信頼関係が成り立たなくなる。そうすると患者は九州厚生局に相談するケースが多く当該先生に迷惑がかかるとの理由から。担当歯科医師には伝えないで欲しいという要望も結構ある。

・医療紛争が発生した際、その処理に関する委任状を該当先生が作成するが、あくまでも後日の事務処理上の事と考えていただき解決に向けて協力して欲しい。

・報告書についてはお互いが書きやすく読みやすいように別紙に書いて添付して欲しい。

また実際の事例（平成24年度）を挙げ、術者のグローブを患者毎に取り換ええない、歯科衛生士の業務範囲の問題、明細書発行は電子請求の場合は患者から求められた場合は0円と決まっている等が指摘された。また患者が認知症の場合は通常は家族か施設の方、ケアマネが同伴すると思うが家族への相談が大切とした。ここで

医療苦情事例分析
(平成23年、24年
度)から相談・苦
情の多くは料金の
問題、説明不足、
治療内容、歯科医
院の対応態度によ
るものなので、日
常の診療できちんと患者と向き合い意思の疎通
が図れた上で十分な説明をすること、また少し
気を付けるだけで相談・苦情はかなり減少する
と考えられるとあった。



不安を解決することが大切

2) 犬東先生より

「患者の不安を解決することが一番大切で、
患者の立場にたって考える。」

自己を殺して他人のために行なっていくこ
とが苦情解決への第一歩でその人が何を求め
ているのかを把握することが大切。

以下の事は、熊本県歯科医師会医療対策委員
会で作成された「DOSからPOSへーより良い
信頼関係のためにー」に書かれてあるもの
相談対応時注意すべき点

- ①相手の質問に真摯に答える
- ②相手のレベルにたって答える
- ③相手の理解度を確認しながら話を進める

実際の手順について

事前に調べておくべき事項を確認し必要であ
ろう情報資料などを準備する。

患者に確認しておくこと、質問すべき内容を
整理しておく

- ①相手の話を良く聴く
- ②質問する
患者が答えやすい内容の質問をする
- ③相手の話に対してコメントをする
- ④今後について相談。出来ないことはできな
いとはっきり言う、具体的な案を2、3提案し

患者さんに決めてもらう。

医療対策委員会作成 「Innovation 安心安全
な歯科医療を求めて」から

「科学が万能でない理由」

「神にならなければならなくなった医者」

「医療はビジネスであってはならない」

下2つは「パッチ・アダムスと夢の病院」か
らの引用

医療相談の担当の先生によって期待できる効果
として

医療水準の向上

患者と先生の信頼関係の回復

歯科界の社会的地位向上

郡市歯科医師会の仕事のアピール

などが考えられる。

郡市担当者から以下の質疑応答があり閉会と
なった。

- ・他県の医療相談システムなど
- ・相談内容の地域差
- ・医療相談事例の解決まで経過、決着の掲載
- ・認知症患者対応等

1時間30分程度の会議であったが内容が濃く、
得るもの・考えさせられる事が多く今後 担当
者として医療相談に活かせる事を多く勉強でき
た会議であった。



相談に対する心得が説明された

(医療管理(医療相談)有働秀一)

「なぜなぜ分析」をしてみよう

医療安全支援センタージョイントミーティング 合同事例検討会



各病院における事例検討発表

11月7日（木）福岡天神クリスタルビルにて医療安全支援センタージョイントミーティング合同事例検討会が開催された。北は滋賀県から南は鹿児島県まで全国から40名で東京大学医療安全管理学講座からスタッフが7名参加し、熊本からは御幸病院、明生病院、弓削病院、池田病院、済生会熊本、高野病院等、13名の参加があった。

主 催 医療安全支援センター総合支援事業事務局
東京大学大学院医学系研究科医療安全管理学講座

企画協力 進行 熊本市保健所医療政策課
(熊本市医療安全支援センター)
岩崎浩思技術参事



参加者全体での事例検討分析

プログラムは以下の通り

10:00～ オリエンテーション

10:10～ 事例紹介と会場検討（熊本市保健所
医療政策課 古賀千栄子）

①熊本市医療安全支援センターの相談事例報告

繰り返し相談者へ
の関わり

歯科診療所からの
相談対応例

②医療安全支援センターからの情報提供と病院の取り組み



各班に分かれてのワーク

(医療法人佐藤会 弓削病院総務部医療安全・苦情相談担当 認定医療メディエーター 外村晃様)

一般病院の事例 (1例)

精神科病院の取り組みについて

12:40~ 事例の共有 (患者・病院が抱えている問題抽出)

事例を通じて支援センターと医療機関の問題把握の違いを知る

「なぜなぜ分析」をしてみよう

12:10~ 明治学院大学心理学教授 杉山恵理子先生から講演

14:50~ まとめ

なぜなぜ分析について

各々の事例について「なぜ? (そうなったのか)」と疑問を投げかけ、その質問を付箋に書いて貼り付ける。そしてその答えを付箋に書いて貼り付ける。この繰り返しで原因を掘り下げるが、ひとつの出来事について3回以上行うことが推奨される。

質問と答えが出なくなったとき最後の答えが根本原因の候補となる。不足している情報がなければ確認する。これは医院内で起こりうるあらゆるヒヤリハットの解決法を見つけ出す方法として有効と考える。

杉山先生の講演では「ストレスの対処の仕方」と「中立とは何か」の話があった。

ストレスの対処法として

ストレスを輪ゴムに例えて話された。ピンと張った状態の良いストレスは生きがいやりに繋がり適度なストレスは必要で、強く張り過ぎた状態の悪いストレスは仕事が終わったら出来るだけ忘れ、罪悪感を持たないようにする。

また以下に挙げた事はアウシュビッツの過酷な状況下に置かれた人の話から生まれた概念で常に心に持ち続けることが良いとした。

- ・何とかなると信じること
- ・やまない雨は無い
- ・どんなことにも意味を見出す
- ・人との関係をうまく保つ

中立についての話では、例えば患者、病院、支援センターとの繋がりでの関係も掛け合せてプラスにならないと成り立たない。

この3者が今後チームワークを組み共有していく事が大切。

また医療相談、苦情の予防策として患者とうまく付き合っていくために、患者家族や民生委員の方等、地域の方を入れて話し合えるような場を持つことが有効と考える。などの内容であった。

今回の医療安全の話の中で往診の話にも繋がり、今後歯科医師会でも進めていく口腔ケア、摂食嚥下関係の事業にも歯科医師がリーダーシップをとり、異業種の方達と積極的に進めていかなければいけないと感じた研修会であった。

(医療管理 有働秀一)

お勧めのディスク

Sonny Criss - The Complete [Imperial Sessions]

ソニー・クリスがインペリアルレーベルに残した3枚のレコード (Jazz U.S.A、Go Man!、Plays Cole Porter) を2枚にまとめた徳用盤。

残念ながら、所有の3枚のLPのほうがいい音です。デジタルリマスターをちゃんとやってね、どうせ出すなら。

内容は50'後半なのにビ・バップじゃなく、ファンキーで、甘めのフレーズでポップスに流れようかと思わせながら、怒涛のプロウを聞かせてくれる名盤です。

K.ドリュウ、S.クラークがバックにいたので隠れた名盤とされていますよね。

健康への意識を高めるために

2013年熊本市民健康フェスティバル

今年も9月28、29日の2日間に渡って熊本市民健康フェスティバルが熊本県民交流会館パレアにて開催され、たくさんの熊本市民の方で賑わいました。

開会式では主催者として幸山政史熊本市長がご挨拶され、続いて熊本県医師会長、熊本市医師会長などのご挨拶があり、最後に小学生により健康宣言が宣言され2013年健康フェスティバルがスタートしました。

その後8020表彰式が行われ、熊本在住の80歳以上で20本以上の歯が残っておられる方々の表彰式が行われました。今年は過去最多の125名の方が受賞され、最優秀賞の方に宮本格尚会長がインタビューされましたが、「昔から歯医者には行った事がない！」と言われており会長もお困り顔でしたが、和やかなムードのうちに表彰式は終わりました。

歯科相談、口臭測定コーナーは開会式中からたくさんの方が会場にお見えになり、開始前から各ブースの担当の先生方に対応して頂きました。今年の歯科相談コーナーの来場者数は次の通りでした。

歯科相談……9月28日(土)	83名	口臭測定……9月28日(土)	117名
9月29日(日)	36名	9月29日(日)	122名
	(合計) 119名		(合計) 239名

結果的にほぼ例年並みでしたが、口臭測定は年々受けられる方が増えてきているよう思います。「他の人から口臭がすると言われた。」ということで測定される来場者が多かったようです。

歯科相談ではやはり高齢者がほとんどで、相談内容は一般的な歯科健診希望者に加え、歯周病についてと入れ歯についての相談が圧倒的に多い様でした。

日頃から口腔内を気にされている方がたくさんいるのに、歯科の受診率が上がっていかない現状をどのように改善していくかを考えさせられました。

今後の課題として市民の方々に広く知ってもらい、色々な世代の方々にも積極的に参加してもらえる様なイベントにすることが大切で、長く続けていくことで健康への意識が高められればと思います。



口臭測定者は239名であった



宮本格尚会長自らインタビュー



119名の歯科相談者が訪れた

(地域保健 椿 賢)

制度の周知徹底と熊本市歯科医師会と熊本市医師会の更なる連携の確認 第17回 熊本市入院入所者歯科診療運営委員会



入院者の歯科保健の向上を図る事が目的

10月3日（木）19時30分より、熊本市入院入所者歯科診療運営委員会が歯科医師会3F会議室1にて開催されました。

本事業は、熊本市医師会会員施設に入院している者で歯科診療を受けることが困難な者に対し、歯科診療の実施及び口腔ケアの実施、指導を行い入院者の歯科保健の向上を図る事を目的とした制度で毎年統計総括を出し医師会の先生方と協議を行っています。

会議当日は、熊本市医師会より加来裕副会長、田中英一地域医療担当理事、竹下一幸地域医療委員長、本会より渡辺猛士副会長、高松尚史専務理事、古川猛士常務理事、瀬井知己厚生理事、神崎理子厚生委員、添島英輔厚生委員が出席しました。

まず、本会を代表いたしまして、渡辺副会長が本事業における医師会の先生方の日頃のご協力と今年3月に「熊本市医師会と市内公的病院との連絡会議」にてこの制度の案内をさせていただいた機会への感謝の意を述べられ、そして、更なる活発な会運営の為のご協力のご意見を賜わりますようにと改めてお願い申し上げ挨拶を行いました。

次いで、医師会副会長の加来先生より、医師会としても会員への本事業の周知徹底をはかり会報誌への掲載等も行っているが、更に会員施設での利用機会の拡大の為の協力は惜しまな

いのご挨拶がありました。

そして神崎厚生委員より平成24年度の実績報告の発表がありました。（別表参照）



医師会も本事業の周知徹底を図りたい

平成24年の総括といたしましては、年間総件数はここ数年ほぼ横ばいで200件をやや超える状況で推移しております。

主訴別依頼内容としては、義歯不適、義歯修理、義歯新製と義歯関係が圧倒的に多く、全体の60%を占めており、年齢別依頼状況でも対象患者が高齢の方が多く60歳以上の割合が全体の95%を占めていました。

近年、介護を必要とする高齢者の方々の口腔ケアの重要性が認識されておりますが、歯科衛生士の訪問指導回数は全体の往診回数の80%にも及んでおります、などの報告後、本事業の利用促進の為の協議へと移りました。

加来先生より、例年件数が200件と推移しており、需要が増えない理由としてやはりまだ病

院関係者への認識不足もあるのではとのご指摘がありました。病院の院長、先生だけではどうしても活用できない部分が多いので、医療法人会の会長の先生にお願いして看護部長会、事務長会での説明や老健施設の人との会議等にも参加をしてみてもどうかという意見も頂きました。個人的に近隣の歯科医院へ依頼しているケースもあるので、まずは正規のルートを知ってもらう事が重要とのことでした。



医師会との連携で口腔ケアの必要性を訴える

田中先生からは、在宅、訪問診療においても積極的に出て行ってみたいかどうかとの意見もいただきました。医師会でも在宅診療の啓発事業に力を入れ始めているため、医師、歯科医師とのチーム医療の必要性が重要になってくるはず、積極的に地域包括支援センターやソーシャルワーカー、ケアマネジャーの会議等に参加して本事業の説明を行ってみてはとの意見も出されました。

そのことについて渡辺副会長より、実際在宅や訪問診療は今でも取り組んでいるが、現在ケアプランの中に歯科の項目が含まれていないのが現実で、もっと本会でも行政に口腔ケアの重要性をアピールしていく必要があるという意見も添えられました。

有床病院では、現場の看護師が入院患者の口腔清掃を十分な専門知識がないにもかかわらず行っている事が多く、歯科医師の指導のもとで専門的知識を持った歯科衛生士が業務を行えるよう環境を整え、またはそういう現場での研修会、勉強会なども行えるようになれば更なるニーズが出来るとの意見もありました。

今回は、それぞれの先生方が忌憚のない意見を出し合い大変有意義な会議となりました。

歯科医師会としてはこの制度の周知徹底をもっとはかり、医師会との連携を更に深めることが重要であると再確認致しました。

〈別表〉

主訴別依頼状況（重複）

	男性	女性	計
① 義歯不適	31	61	92
② 義歯修理	12	15	27
③ 義歯新製	9	9	18
④ 歯痛	5	4	9
⑤ 歯牙脱落	1	1	2
⑥ 歯牙破折	4	3	7
⑦ 歯牙動揺	6	10	16
⑧ 歯冠修復物、充填物脱離、破損	0	4	4
⑨ 歯肉痛（腫脹）	10	5	15
⑩ 歯肉出血	5	0	5
⑪ 口唇裂傷	1	0	1
⑫ 舌・口腔粘膜疼痛	2	2	4
⑬ 咬合痛	4	3	7
⑭ 咀嚼不全	0	6	6
⑮ 顎関節痛	0	3	3
⑯ 口腔ケア	3	6	9

年齢別依頼状況

	男 性	女 性	計
15～19歳	0	0	0
20～24歳	0	0	0
25～29歳	0	1	1
30～34歳	0	0	0
35～39歳	0	1	1
40～44歳	2	0	2
45～49歳	0	0	0
50～54歳	1	1	2
55～59歳	3	0	3
60～64歳	8	3	11
65～69歳	2	2	4
70～74歳	6	7	13
75～79歳	10	13	23
80～84歳	20	39	59
85～89歳	15	18	33
90～94歳	12	23	35
95～99歳	2	10	12
100歳以上	0	4	4
不 明	0	0	0
総 計	81	122	203

月別状況

熊本市入院入所者歯科診療年間実績報告書（平成24年分）

	件数	往診回数	治 療 内 容					その他 口腔ケア	衛生士訪問 指導回数
			義歯	保存	歯冠修復	歯周治療	外科		
1月	17	33	12	2	0	1	4	2	21
2月	16	33	11	2	1	2	2	1	28
3月	15	38	15	0	0	2	4	4	27
4月	16	31	16	1	0	3	3	5	26
5月	18	35	18	0	0	5	1	3	33
6月	15	30	15	1	0	7	2	5	23
7月	16	38	11	1	0	5	1	3	30
8月	21	45	15	0	0	2	3	4	42
9月	17	30	14	1	1	1	2	1	23
10月	16	36	13	0	0	3	1	2	28
11月	17	39	11	1	1	2	2	3	28
12月	19	41	12	0	6	1	0	1	33
計	203	429	163	9	9	34	25	34	342

（厚生 瀬井知己）

修復治療における矯正治療について

北部3支部 清水歯科クリニック 清水幹広

日常臨床において、患者は審美障害や機能障害などさまざまな主訴をもって来院される。そして、我々歯科医師はその主訴に対して適切に対処していかなければならないが、そこで矯正治療の必要性に悩むことがある。今回2ケースを提示してそれらについて考えてみたい。

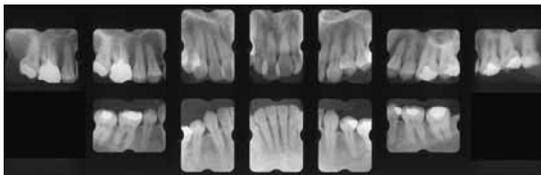
ケース1

32歳女性 主訴 審美障害

「歯並びについて話を聞きたい」



初診時口腔内写真



初診時X線写真

[診断] 歯列不正

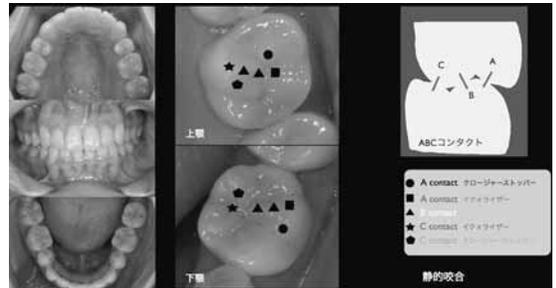
[治療計画] 矯正治療



初診

矯正後

矯正治療終了後、主訴の審美障害は改善され患者の満足は得られたが、これで咬合の安定が長期に得られるだろうか？



術後と左側第一大臼歯の咬合面形態

今ケースのように、臼歯部に（特に第一大臼歯が重要）修復処置が施されており、それらの咬合面形態が適切でない場合は、歯牙の位置は改善されても咬合の安定（静的咬合＝咬頭嵌合位の安定）に不安が残る。そのような場合、適切なオクルーザルコンタクト（ABCコンタクト・クロージャーストッパー・イクオリザー）の付与が必要である。

- | | | |
|-------|---|---|
| 左右的安定 | — | ABCコンタクト |
| 前後的安定 | — | クロージャーストッパー
（前方への偏位を防ぐ）
イクオリザー
（後方への偏位を防ぐ） |

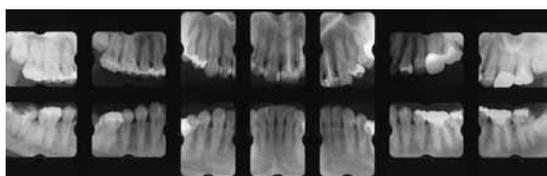
Study

ケース 2

22歳女性 主訴 「右下奥歯の歯科治療途中
(他院)」
「全体的に歯をきれいにしたい」



初診時口腔内写真



初診時 X線写真



多数歯にわたるカリエス、
歯牙の色調や位置・軸方向、
叢生(矢印)などの問題を
認める。これらの改善が補綴処置のみで可能か？
また長期にわたって咬合の安定が図られるだろう
か？補綴処置と矯正治療後に補綴処置を行った
場合を比較すると、一般的に以下ようになる。

[補綴処置] 歯牙の色調と形態の改善

[矯正治療+補綴処置]

歯列(歯牙の位置・軸方向)の改善と色調と形態の改善

[診断と治療計画]

このケースでは、22歳の若さで左上1の唇側傾斜や前歯部の叢生を考えると、今後長いライフステージのなかで経年的に叢生が進み、咬合性外傷やガイドの問題を生じ、長期にわたる咬

合の安定維持に不安が残ると診断し、

歯牙の連続性	(審美回復)
歯列弓の保全	(咬合の安定)
清掃性の向上	(歯質保護)

を目的として矯正治療を行い、その後、補綴処置による全顎的な治療を行うことにした。ただし、これだけカリエスリスクの高い患者に矯正治療を行う場合、矯正治療時のプラークコントロールには特に注意が必要である。



矯正治療と術後(補綴処置後)



術前—術後の正面観



術後の前歯部 審美的問題
(色調と形態やバランス)の改善が得られた



術後の X線写真

《まとめ》

修復治療において、矯正治療を選択するか否

か悩むことが多い。

ケース1のように原因が歯列に起因するのであれば、矯正治療が必要と診断は容易であるが、ケース2のように矯正治療の必要性に悩む場合などでは、矯正治療を行った場合のメリットを、

患者の主訴や年齢、カリエスやペリオリスクなどのさまざまなリスク因子を含めて、審美的・機能的安定が長期に得られるかどうか診断して決めなければならない。

お勧めのディスク

The Strypes - Snapshot

英国から平均年齢16歳のバンドがデビューしました。聞いてびっくり、ばかテクギター、思いっきりハイテンションのプレイ、ストレートなロック。10月に初来日公演、そのついでにMステに出演した折たまたま見ていた私でした。はまりました。

別に仕事にしているわけじゃあないので新人の曲なんてあえて聞くことはないんですけど、いいですよ。

E.Costello、P.WellarはたまたM. Knopflerあたりが好きな方は是非。

John Coltrane The 1961 Newport Set

1961年、Miles Davisの元から巣立ち、いよいよ自分の音楽を展開しようとするまだ若い（35歳）Coltraneです。

1961 Newport Setというタイトルですが、それは前半の4曲までで、後半はヘルシンキでのライブ、音質もかなり落ちる。

メンバーは、Newport (1961.7.1) が、John Coltrane (ss, ts)、McCoy Tyner (p)、Art Davis と Reggie Workman (b)、Elvin Jones (d)。

ベース、ドラムの音はモコモコしている。

Helsinki (11.22) が、John Coltrane (ss, ts)、Eric Dolphy (as, bcl, fl)、McCoy Tyner (p)、Reggie Workman (b)、Elvin Jones (d)。

音質は、モノラルラジオから聞こえるレベル。Newportよりさらに落ちます。音質はともかく、同じようなセット曲目 (Impressions、My favorite things) を、聞き比べられるのが眼目。

やっぱりドルフィーが参加したヘルシンキの方が遥かにスリリング。天衣無縫のサクソとフルートは聴きもの。

Impulse!の63 at Newportはこれを聞いた後から聞くとやっぱりプロは違うね、いい音です。もちろんプレイもいいけど。

Wayne Shorter Without a Net

ショーター翁健在！一聴耳を疑う斬新なプロウが響きます。でも残念なことにリズム隊がそれについていけません。

歳を考えると、驚くしかない新しさを感じます。だからこそ人前に出てこれるのでしょうか。

70年代の尾を引きずるリズム隊を差し引いても星をたくさんつけたい音盤です。

なんだか、ドルフィーを聞きたくなってきた。

支部会だより

平成25年 熊本市歯科医師会支部長会議 会費定額制導入要請にあたり、約3年ぶりに開催

8月26日（月）19：00より、歯科医師会館3F市歯会議室にて支部長会議が開催された。当日は12支部の支部長全員の出席と、本会より宮本会長、高松専務理事にも同席いただき約3年振りの支部長会議開催となった。

開会に続き、各支部長に自己紹介ならびに抱負を交えた挨拶をして頂いたが、皆若かりし頃の新樹会での活動や本会の行事で顔なじみの先生方ばかりで、和やかな雰囲気の中での支部長会議スタートとなった。次いで来賓を代表し宮本会長より「支部長会議をまた復活され、本日の開催を迎えられたことが今後の支部活動の活性化に繋がることになるであろう」「新執行部も清村執行部から引き継いだ課題を、会員の先生方のご意見を十分に受け止め一致団結して遂行してゆく」との力強い挨拶を頂いた。

そして協議に移り、本日の主題である「本会会費定額制一本化」に向けて現在に至るまでの経緯を、様々な事情を交え高松専務より説明報告がなされた。タイムスケジュール的には、今年10月から来年2月までに支部単位で会員に対しての説明会を複数回開催し、3月の審議会、総会を経て6月の総会で可決、平成27年4月1日より実施するのを目標としているとのことであった。詳細については、執行部の説明会開催を待ち、会員との質疑応答を重ねた上で結論に至らせる訳だが、他県他市の歯科医師会の現状と照らし合わせると会費定額制をいち早く実現したいとの趣旨であった。また、本制度に移行すると大多数の会員は実質会費の値上げとなるが、今後の会務運営における諸経費に関しても、削減可能な部門は極力抑え、会員のため将来の本会発展のために出すべき経費は惜しみなく出すと、会員目線での会費の有効活用についても既に熟慮を重ねているところであるとの説明があっ



発起人となった秋山清中央支部長

た。

これに対し支部長側からは、定額制と現状の収入割とを比較した場合の差異、すでに定額制を実施している他県他市歯科医師会の会費の額、今後の会員構成のシミュレーション、例えば新入会員の年度予測数の推移や終身会員の増加に伴う会費収入への影響など踏み込んだ内容の質問もあり、今後執行部でも更に綿密なデータを作成し会員への説明会に向け対応したいとの返答がなされた。

現在の支部の問題としては、植木、城南の熊本市への編入や新入会員の近年の増加などに伴い、支部毎の会員名簿の整理、事務局内の会員診療所分布精密地図の改正、区割りの明確化などの事項に関する発言があった。

1時間を経過した頃、この会議も終盤となり、今後の支部長会議の開催時期や要綱について協議、可決し閉会となった。

その後、宮本会長、高松専務そして取材にいられていた温広報理事を交えた全員で懇親会の場へ移動し、各支部の現状などについて語り合い支部長同士の更なる親交を深めた。

付記

支部長 2 期目を迎えた実感として

会員の先生方、日頃より支部活動に対しご理解ご協力頂きまして、本当に有難うございます。

宮本執行部がスタートした6月29日より、私は2期目の支部長を務めております。何も分からぬまま支部長となり1期2年間が経ちましたが、この間色々な経験をさせて頂きました。自分なりの反省や会員の先生方への期待を込め、この場をお借りしまして私見を記させていただきます。

まず支部長の選出方法ですが、それぞれの支部で多少の違いはあるかと思えます。私の場合は、前支部長と歴代支部長数名の推薦でした。その支部での入会年数や年齢などで、次期支部長候補は自ずと絞られてくるようです。

そして支部長になると、本会との距離がより一層縮まります。必然的に審議員となり審議員会への出席義務が生じるからです。また総会への出席（任意）、不定期に医道委員会への出席（会員の新入会時）、県歯の代議員会さらには国保組合会議など会議の事務連絡が入ってきます。単なる一会員の時には、会議に参加する気持ちも全くありませんでしたが、現場に出て行くと執行部の先生方が本会のために尽力されていることが伝わってきますし、歯科医師会の対内対外活動をいち早く確認できます。この点から支部長任期は3期以内とし、次世代に交代してゆくのが理想と感じます。

また実際の支部での役目としては、本会より支給される支部交付金や支部会費の収入に対し、より多くの支部会員の先生方にメリットがある活動を行い支部のお金を支出することに尽きます。支部総会、新年会あるいは忘年会、本会の厚生行事、会議前の支部会、慶事のお祝い、弔事の志、レクリエーションの企画などで支部内のお金は出ていきます。とりわけ支部の会合では、毎回必ず参加される先生と一度も参加されない先生に何故か二分されるのが悩みの種です。支部長としての企画力の無さか、段取りの悪さか、私の人間性のせい（？）せめて欠席され



会費の一本化について説明する高松尚史専務理事

る先生方のご意見やご希望を知り得たならば今後に活かせるのですが、支部活動は任意参加のため協力を求めるまでで更に踏み込むこともできません。

会員の先生方は年齢も様々で現在の診療状況も異なるわけですが、いずれかの支部に所属されておられます。本会の厚生行事も支部単位で参加を募っております。また各支部においても年に一度は何かしらの行事があるかと存じます。なるべくなら近所の先生とはかかわりたくないと思われている一部の先生も居られるでしょうが、お願いも込めて言わせて頂きますと「特にこれから人生のピークを迎えられる若い世代の先生方、もっと外へ出られてみては如何でしょうか。日々の診療に追われ大変なのも確かですが、色んな人と関わる機会を増やし知見を広げてみられては如何でしょうか。聖職者として十人十色の患者を診るためにも、己の人間性を更に高める機会を積極的に創られてみては如何でしょうか。」

偉そうに提言しましたが実は私も歯科医師家系の三代目で、開業する40歳まで社交的ではなく出不精の人間でした。そして現在50歳を過ぎて私もできるだけ多くの会合に参加し先輩方から様々な分野の教えを受け、常に向上心を忘れずに生きています。ある時は後輩の先生から治療技術に関する刺激を得て、翌日から気持ちを若返らせ、負けじと技術の研鑽を重ねております。苦しい時だからこそ自分自身を変化成長させ、決して周りや環境のせいにならない自己の強靱さや信念が問われる時代だと実感しています。

話を戻しますが、何よりお一人でも多くの会員の先生方が今回の会費徴収制度に関しまして

も、ご自身の意見や要望を支部長に伝えられたり説明会で発言されることが大切だと考えます。定款にありますように各々が自主性を持たれ会員の権利を活かし、これにより本会が益々活性化してゆくことを宮本会長以下執行部の先生方も期待されています。

皆様が歯科医師会会員であることに誇りを持ち診療され、会員同士が笑顔でお付き合いできるためにも我々支部長12名は今後より一層努力して参りますので、会員の先生方の支部活動へのご協力を心よりお願いいたします。

(中央支部 秋山 清)

北部3支部医療対策講演会

「医療苦情ゼロを目指して」



普段聞けない話に会場は緊張気味

10月23日(水)19時30分より、県歯科医師会館3F市歯会議室にて「平成25年度熊本市歯科医師会北部3支部医療対策講演会」が開催された。

今回のテーマは、「医療苦情ゼロを目指して」で、県歯医療対策委員会で北部3支部の会員でもある、永松聖隆副委員長 温永智委員を講師に迎え、中嶋隆志支部幹事の司会の下、2時間を超える充実したものとなった。

講演は2部構成で、まず温委員より、委員会の仕組みの説明があり、そのあと警察対応事例、暴力団対応、医師賠償保険、示談例、死亡事例、熊本県の裁判例の具体的な説明があった。

続けて永松副委員長より、精神疾患への対応、自分の対応事例など説明があった。

今回の講習は、医療苦情相談の現場で直接患者さんと接している先生方のリアルな話を直接聞く機会を得て、質疑応答も盛んで非常に勉強になる講演会となった。今回の勉強を通して、苦情を限りなくゼロにするためには、我々医療提供者の対応次第であることを痛感させられ、身が引き締まる思いがありました。

また、日ごろ会員のために、医療苦情相談に携わっている事務局、医療相談委員の先生方のご尽力に感謝するとともに、今後もこのような講演会を定期的で開催していきたいと思えます。



最後に谷口守昭支部長(右)より謝辞

(歯科ホワイトピアノ 能美 忠)

東部4支部 歯科臨床セミナー 「医療対策と社会保険を研修」



大成功に終わったセミナー

10月23日(水)「3F市会議室」にて、澤木孝明支部長の発案により、東部4支部としては初となる支部主催の「歯科臨床セミナー」を開催しました。

研修内容は、熊本県歯科医師会「くま歯キャラバン隊」から岡田長久先生による「医療対策について」と、渡辺洋先生による「社会保険について」の2本立てでした。支部主催のセミナー開催は初の試みであり、色々ご迷惑をお掛けした部分もありましたが、診療後の平日の夜にもかかわらず、支部会員の過半数を大きく上回

る先生方にご参加頂き、また岡田先生、渡辺先生の充実したセミナー内容とトークにより、質問も相次ぐ大成功のセミナーとなりました。

その後の懇親会には、東部4支部会員であり県歯常務理事の牛島隆先生にもご参加頂き、お酒も料理も会話もすすむ楽しいひとときとなりました。このような会で飲むお酒は本当に美味しいものです。

今後また研修会等を通して、支部の親睦を深めていけたらと思います。



更なる質問が飛びまわった懇親会

(東部4支部 上野啓之)

「健康づくり 毎日楽しく 根気よく」

——第37回 健康教室講座——

10月10日(木)熊本地域医療センター新館6Fホールにおいて、熊本市医師会ヘルスケアセンター主催の第37回健康教室講座が「健康づくり 毎日楽しく 根気よく」をテーマに開催されました。受講参加者は60名程で、平均年齢71歳、うち7割の方が長年の受講者で熱心な方が多く受講されていました。

今回「健康の維持はお口のケアから」と題しまして講演をしてみました。近年、肺炎による死亡者数の増加から口腔ケアの重要性や誤

嚥性肺炎の予防に関心が高まっています。そこで、口腔ケアと誤嚥性肺炎の関連性、誤嚥のメカニズム、噛む事の重要性および口腔周囲筋のエクササイズなどの内容でお話させて頂きました。

講演終了後は、受講参加者からの質問も多く頂き口腔ケアに対する関心の高さを実感しました。これからの超高齢化社会における我々歯科医師の役割について考えさせられるいい機会になりました。(地域保健 矢毛石 玲)

委員会紹介

医療管理委員会



- ①開業場所、開業年数
- ②家族構成
- ③最近感動したこと、憤慨したこと
- ④趣味、特技、私のこだわりなど
- ⑤委員会に所属しての抱負



有働 秀一

- ①熊本市中央区南千反畑町 13年
- ②妻
- ③これまで続かなかった診療所までの往復の徒歩通勤
1年半続いているので自分でもびっくりしています。久しぶりの汗に感動さえも覚えます
- ④海釣り、テニス
- ⑤委員の先生方とともに「会員のためになる委員会作り」をします。
宜しくお願いします。



高橋 禎

- ①熊本市東区下江津 10年
- ②妻、長女、長男の4人家族
- ③“中村久子先生の一生”という本に出会って自分の生き方を考えさせられたこと。
- ④最近、サバイバルゲームを楽しんでいます。
- ⑤今期も委員長ですが、これからは会員に必要な情報を随時発信していきたいと思っています。



関 喜英

- ①熊本市東区桜木 8年
- ②妻、娘（7歳）、息子（0歳）
- ③毎年シュノーケリングで潜る茂申の海の美しさ。
飲みに行ったBARで聴いた生演奏のウクレレの音色。しかも美女だし。
- ④映画、音楽、ミュージカル鑑賞、写真、グルメ、シュノーケリング、スキー、ボウリング、読書など。
- ⑤医療管理魂を追求します。



町田宗一郎

- ①熊本市西区野中 8年
- ②妻
長女（15歳）
長男（12歳）
- ③熊本城マラソンサブ4達成
- ④ジェットスキー マラソン 車 早起き
- ⑤3期目になります。
委員会の仕事に責任を持って楽しく積極的にこなしていきたい。



片山 晃紀

①熊本市西区島崎 6年

②妻

長女 8才

次女 4才

③子供の食育の為と思い、プランターにキュウリとトマトを植えたら、以外と簡単に実がなった事。子供より自分が感動しました。

④趣味：ゴルフ、釣り

ゴルフは、同級性のD先生に教えてもらっているが、なかなか芽が出ず呆れられている。

⑤医療管理委員会は、忙しい委員会ですが、楽しくあっという間に4年が過ぎ、早いもので今回3期目になります。新理事の有働先生のお力になれるように、微力ながら頑張りたいと思っています。宜しくお願いします。



宇都 和寿

①熊本市中央区段山本町 2年

②妻、長男2歳

③子供の成長に日々感動している。

④ゴルフ

⑤何もわかりませんが、色々教えていただきながら、精一杯頑張ります。よろしくお願ひ致します。



森野 茂

①熊本市北区池田 3年

②妻、娘(5歳)

③仕事から帰った時、娘が「お疲れさん。」と言ってビールをついでくれて、グッときました。

④朝のランニング(たまにウォーキング)での体力作り兼ダイエットです。

⑤分からないことばかりですが、いろいろ教えて頂き、早く皆さんのお役にたてるよう頑張りますので、よろしくお願ひ致します。

学校歯科委員会



井手 裕二

①熊本市東区花立 13年

②嫁さん（典子）

息子（中3）

娘（小5）

③7月、英国のウィリアム王子にジョージ王子が誕生したこと。王子を出産したキャサリン妃の退院に付き添って会見してましたが、キャサリン妃の退院、早さ！

憤慨したこと 最近の異常気象

④趣味、バイク

特技、一本橋、アニメソングのカラオケ

こだわり、朝食に納豆を食べること

⑤子ども達が少しでも歯に関心を持ってもらうように



前田 明浩

- ①市電健軍電停近く 19年
- ②妻、4歳と2歳の男の子
- ③感動したこと：最近ではありませんが、新幹線が開通し福岡が近くなった事です。本当に便利になりました。
- ④週3回スイミングに行っています。食べるか飲むのが大好きで、車も好きです。
- ⑤もう何期もやらせて頂いていますが、教育委員会等の他の職種の方々と関わる事が多いので、他の職種の方々に歯科医師会の頑張っている姿をアピールし続けていきます。今期も張り切っています。



齊木 智章

- ①熊本市南区合志 12年
- ②妻、長男14歳、次男12歳、三男6歳
- ③特に思い当たらず…。TVドラマ「半沢直樹」の一言かな？
「やられたらやりかえす。倍返しだ！」あれには感動した。
- ④趣味は釣り、ゴルフです。
- ⑤変わらぬメンバーで、末永くよろしく願い申し上げます。



福本 聡子

- ①熊本市中央区手取本町 18年
- ②母、長男、長男の嫁、孫（男の子）
- ③感動した事：日本のスポーツ選手の世界での活躍
憤慨した事：思いつかないです。
- ④趣味：8年目になるヨガ。楽しむゴルフ。
私のこだわり：人に迷惑をかけずに、人生を楽しむ事
- ⑤O型とB型の血液型の集団で、井手先生を中心に皆とても仲が良く、感謝しています。



西 正浩

- ①熊本市中央区坪井 11年
- ②妻、長男（小6）、次男（年中）、三男（年少少）
- ③感動した事：子供がサッカー日本代表の吉田麻也選手のサッカークリニックに参加出来た事。（親が大喜び!!!）
- ④趣味：野球、ゴルフ
- ⑤みんな仲良く仕事する。



津田 寿子

- ①熊本市中央区新屋敷 25年
- ②夫と息子一人
- ③「永遠の0」を読んで感動し、恵まれた現在の私たちを感謝しました。
- ④読書、ゴルフ
- ⑤小学校での口腔衛生指導が、生涯にわたる生活習慣として定着できる一助になるよう努力したい。



山根 康司

- ①熊本市中央区細工町 21年
- ②妻
長男20才（大学生）
長女17才（高校3年生）
- ③同じ学校歯科のS先生がゴルフで100を切ったこと！
- ④相変わらず半ばアスリート目指してテニスを頑張っております。熊本県テニス協会のランキングで50才以上シングルの部門で2年連続1位となりました。
- ⑤微力ながら少しでも貢献できるよう励みます。



渡邊 諭

- ①熊本市南区田迎町 10年
- ②妻、長男、次男、長女の5人家族
- ③平成25年8月8日に開院10周年を迎え、多くの関係者よりお花を頂き、患者様にも10周年イベントを行うことができました。
- ④趣味：釣り、ゴルフ
- ⑤小学生のむし歯ゼロを目指します！



学術委員会



大塚 昭彦

- ①熊本市北区麻生田 13年
- ②妻、長女（中3）、長男（小4）、次男（年長）
- ③感動：息子の所属サッカークラブに日本代表選手がおり、その選手のプレーを間近でよく見れたこと。
憤慨：自分の健康を気遣い、なるべく怒らないようにしています。
- ④スポーツ観戦（特にサッカー）
運動不足解消の為、毎晩浴槽で筋トレしています
- ⑤委員会に参加すると、他の委員の先生方のこだわりを聴くことができ、モチベーションが上がります。会員の皆様のモチベーション向上の為に今期も頑張りたいと思います。



村上 慶

- ①熊本市西區城山大塘 10年
- ②3人(子供1人)
- ③〔感動〕当院の創立10周年の時、スタッフからお祝いのメッセージを貰ったこと
〔憤慨〕あったと思うけど、思い出せません。
- ④最近ゴルフにはまっています。まだ下手ですが一生懸命やっています。
- ⑤会員に良質な学術的情報を発信すること
委員会を盛り上げること



清水 幹広

- ①熊本市北區植木町 17年
- ②妻 子供(3姉妹中2、小6、小2)
- ③高校野球の県予選 決勝戦(熊工対文徳戦)
高校球児のプレーを見る度にそのひたむきな姿勢に胸を打たれる。さすがに甲子園の切符をかけた決勝戦となると、見る側も力が入ってしまう。当たりまえのようにしている、投げる・打つ・捕るといったプレーの裏には、どれだけ汗を流し、素振りや守備の練習をしたのであろう?見る者に勇気ややる気、感動を与えてくれる選手たちに心から感謝し、負けた文徳の選手は残念だが、この経験をこれからの人生に生かして欲しい。
- ④バイク 自転車 釣り
- ⑤少しでもお役に立てれば…と思います。



関 光輝

- ①熊本市西區二本木 7年
- ②長女(6年生)
長男(4年生)
私…相変わらず3人(笑)
- ③〔感動〕沖縄の海、空、人、パイナップル
〔憤慨〕最近、怒ってません
- ④ゴルフ、バイク、子育て
- ⑤市歯科医師会に入会した年に渡辺猛士先生からお誘いをいただき、学術委員会に入らせていただいて3期が過ぎました。今回4期目に突入です。相変わらず、他の委員の皆さんに助けられてばかりですが、精一杯、できるしこ(笑)頑張ります!宜しく願い致します。



入佐 弘介

- ①熊本市北区八景水谷 6年
- ②妻・長女・長男の4人家族
- ③長年憧れていた、木下晴弘先生の講演会を熊本市で開催できたこと。
- ④最近は、自転車・ジョギング・テニスなどの運動に興味があります。
- ⑤今回で、三期目になります。少しでも他の先生たちのお役に立てるよう頑張っていきたいと思えます。よろしくお願ひ致します。



山口 英司

- ①熊本市東区新外 8年
- ②妻と長男(小学4年生)
- ③感動：WBC(ワールドベースボールクラシック)での井端選手の活躍。
憤慨：WBCにメジャーリーグの選手が出ないこと(サッカー選手はみんな出るのに。)
- ④趣味はテニスぐらいですが、最近あまりできていません。
- ⑤学術委員会の運営が円滑にいくように、大塚理事のお手伝いができればと思えます。



久木田 大

- ①熊本市東区湖東 2年
- ②妻、長男
- ③NBAファイナル第6戦残り5秒でのレイ・アレンの同点3点シュート
- ④ゴルフ、スポーツ観戦
- ⑤勉強させていただきます！

新人です！よろしくお願ひします

新 入 会 員 紹 介



氏 名 松原明日香
診療所名 松原歯科医院
(診療所) 〒861-8039
熊本市東区长嶺南4-11-114
電話／096-381-8148 FAX096-381-8148
生年月日 昭和50年4月28日
趣 味 旅行、ゴルフ、ドライブ
好きな言葉



氏 名 梶原 武彦
診療所名 梶原歯科医院
(診療所) 〒861-8041
熊本市東区戸島3-4-26
電話／096-388-2224 FAX096-388-2224
生年月日 昭和38年7月15日
趣 味 パソコン、映画観賞、オンラインゲーム
好きな言葉 一生懸命



氏 名 添島 英輔
診療所名 添島歯科医院
(診療所) 〒860-0805
熊本市中央区桜町1-28-205
電話／096-354-5087 FAX096-359-0261
生年月日 昭和45年8月23日
趣 味 音楽、お酒
好きな言葉 吾唯足知



氏 名 福井偉功人
診療所名 医療法人心優会 福井歯科医院
(診療所) 〒862-0910
熊本市東区健軍本町29番8
電話／096-285-3555 FAX096-285-3551
生年月日 昭和45年8月18日
趣 味 野球、ランニング
好きな言葉 特にありません

ゴルフ川柳

中央支部
秋山 清

スライスも いつも出るなら 持ち球に

(注) 思い切って、左林の上を狙えますからね



天ぷらは 決して食わぬ 昼休み

(注) 前半テンプラで、レディースティーにナイスオンの誰かさん？



池越えは、拾った球に すり替えて

(注) これが自己暗示で、池ポチャの始まりなんですよね



シヨットでも 握るクラブは ドライバー

(注) 70歳越えて、ゴルフ出来るって素晴らしいな



フルバック 全然バンカー 効いてない

(注) フェアウェイバンカーまで、どこか歯医者が届くかい？



オナーさん 他人のシヨットも 道連れに

(注) 全員のらず、全員チヨロ、全員ラフよくありますね



キャディーさん 右へ左へ ダッシュして

(注) 必ずその後、「急ぎますよ！」と怒られます、客なのにね



6インチ おっと君のは 60センチ

(注) あるがままのゴルフがゴルフ by 中部銀次郎



空振りを 忘れたスコア 指摘する

(注) ビギナー以外許しません。だって「ウワッ」て声出してたもん。



「GO!GO!」と ナイスシヨットに 吠えまくる

(注) 握りがかかれば、なおさらですよ。私もそうです。



金額を バディーパットで ささやいて

(注) 心の動揺を誘う一言が念仏のように…入れたらナンボよお



趣味ゴルフ 朝寝坊も 自然治癒

(注) 目覚まし無しで、午前3時に起きます。早過ぎですが。





スポーツの広場



あつまるデンタルゴルフ会

9月1日(日) 台風の為中止

10月13日(日) 15名

	OUT	IN	GRO	HD	NET
優勝 安田 光則	44	44	88	15	73
2位 関 剛一	48	46	94	21	73
3位 本田 治夫	52	49	101	28	73
4位 山室 紀雄	44	48	92	18	74
5位 永田 博久	55	56	111	36	75
B.B. 合澤 康生	62	51	113	20	93

11月17日(日) 14名

	OUT	IN	GRO	HD	NET
優勝 河野 敬明	46	48	94	23	71
2位 合澤 康生	45	47	92	20	72
3位 田村 実雄	45	50	95	22	73
4位 本田 治夫	51	50	101	28	73
5位 坂井 満	51	46	97	19	78
B.B. 大森 秀則	61	56	117	25	92

熊本デンタルゴルフ会

9月29日(日) 9名

	OUT	IN	GRO	HD	NET
優勝 内田 隆	49	42	91	26	65
2位 工藤 隆弘	44	44	88	21	67
3位 三苦 司	43	41	84	14	70
4位 渡辺 博	41	43	84	13	71
5位 木場 正昭	48	51	99	27	72
B.B. 虎谷 真	49	44	93	12	81

11月24日(日) 9名

	OUT	IN	GRO	HD	NET
優勝 松本 光示	41	43	84	14	71
2位 三苦 司	45	44	89	14	75
3位 渡辺 洋	50	53	103	26	77
4位 内山 隆	48	55	103	26	77
5位 甲斐 利博	52	46	98	21	77
B.B. 工藤 隆弘	55	51	106	21	85



会 務 報 告

理 事 会

月 日	協 議 題
8月29日	会務、会計、庶務報告 協議
9月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・本会の今後の会費徴収シミュレーション表と工程表 ・本会の旅費規程について ・本会のパンフレットについて等 会務、会計、庶務報告 協議 <ul style="list-style-type: none"> ・会費均等割移行説明会資料の確認 ・各委員会予算について ・糖尿病・歯周病医療連携について

学 校 歯 科 委 員 会

月 日	協 議 題
8月22日	第52回熊本県学校保健研究協議大会人吉報告 歯磨き巡回指導後期担当について 健康フェスティバルについて
9月26日	全国学校歯科保健研究会について 歯磨き巡回指導後期確認 エイズ対策推進会議報告 シティFM打合せ
10月17日	健康フェスティバルについて 熊本市学校保健会理事会について 歯磨き巡回指導後期確認 第77回全国学校歯科保健研修大会について 第2回学校保健会理事会報告 来年度の予算案について

医 療 管 理 委 員 会

月 日	協 議 題
8月28日	三歯会について 開放型病院連絡会について 国立病院の各種セミナーについて
9月9日	三歯会について フッ化物洗口事業の状況
9月25日	救急薬品説明会 シティFM出演について
9月30日	接遇セミナーについて 医療相談報告

地域保健委員会

月 日	協 議 題
8月22日	すくすく子供博について 健康フェスティバルについて
9月18日	
10月24日	

社 保 委 員 会

月 日	協 議 題
8月30日	更新時の保険医療機関の集団指導の扱いについて 個別指導当日の付き添い担当決め 返戻、査定、再審査の詳細協議 返戻の種類・内容について
9月18日	
10月23日	

広 報 委 員 会

月 日	協 議 題
8月6日	中岳第162号 レイアウト 中岳第162号 第1稿校正 中岳第162号 第2稿校正 中岳第162号 反省会 中岳第163号 目次作り H26年度 予算編成
8月20日	
8月27日	
9月25日	
10月30日	

厚 生 委 員 会

月 日	協 議 題
8月23日	入院入所者集計 新年パーティーの企画について 会員地図の作製について 新しい厚生事業について 親子会員の扱いについて 来年度の予算について 会員配置図の新製について 入院入所者集計
9月20日	
10月11日	

学 術 委 員 会

月 日	協 議 題
8月6日	学術講演会の打ち合わせ シティーFM出演について 社保委員会との合同講演会について ホームページの更新について
8月24日	学術講演会
9月10日	デンタルダイヤモンド社との話し合いについて 市歯科医師会費について ホームページの修正について
10月8日	予算案の検討 講演会の講師の検討



編 集 後 記

現在、朝方東の空にアイソン彗星が光輝いていることと思います。人類が一度しか見ることができない彗星です。

20世紀の初めに来たハレー彗星は、彗星の尾が地平線から反対の地平線まで伸びていたと亡くなった祖母が言っていた事を思い出します。私もこの彗星の事を孫に話すことが来るのでしょうか。

思えば人間の時間の流れに比べて、何と宇宙の時間の流れは悠久なのでしょう。しばし仕事の手を休め物思いに耽るのもいいかも知れません。 (N. O)

熊本市歯科医師会会誌

第 163 号

発行日 平成25年12月15日発行
発行所 一般社団法人熊本市歯科医師会
熊本市中央区坪井2丁目4番15号
<http://www2s.biglobe.ne.jp/~kdc8020/>
mail:kda8020@msg.biglobe.ne.jp
TEL (343) 6669
FAX (344) 9778

発行
責任者 宮本 格尚

印刷所 コロニー印刷
熊本市西区二本木3丁目12-37
TEL 096-353-1291 FAX 096-353-1294